

明治天皇勅願所の「中山寺」

増山雄三

六十年以上に及んだ私の友人が、今年の一
月に八十三才で亡くなったので、コロナ禍
のなかながら、彼の奥さんの実家で宝塚にあ
る「中山寺」で、家族葬が行われたので、阪
急宝塚線に乗り「中山観音駅」で下車した。
駅の北口を出ると、甘栗や炭酸せんべいを
売る店が並ぶ、中山寺への参道が続いている
が、まだ時間があつたので、「草だんご」の
文字につられて、「きく水」のれんをくぐ
り、素朴な粒あんに舌鼓をうった。
中山寺は、安産祈願寺として有名で、地元
では「中山さん」と親しみをこめて呼ばれ、
真言宗中山派大本山の寺院だが、山号は紫雲
山といい、西国三十三所観音霊場の札所でも
あり、本尊は、インドの勝鬃夫人の姿を写し
た、「十一面観世音菩薩」である。

左右の脇侍も十一面観音で、本尊と合わせ
て三十三面となり、観音教が説く、観音菩薩
の三十三権変化身を表し、真の功德が得られ
るとされているものだ。

寺伝によれば、この寺は、聖徳太子が建立
した日本最初の観音霊場で、創建された経緯
は二つあり、一つは十四代仲哀天皇の子であ
る忍熊皇子の追善供養のためというのと、あ
と一つは、聖徳太子に敗れた、物部守屋の霊
を鎮めるために建立されたといわれる。

そして、奈良時代には大小多数の堂塔伽藍
を備えた大寺院だったと伝わり、「極楽中心
仲山寺」と称されていたというが、養老二年
（七一八年）、大和長谷寺の徳道上人が、閻
魔大王から「観音信仰を広めるように」と言
われて、御宝印を授かったという。

徳道はその御宝印を、当寺の中山寺古墳の
石棺に納めたというが、約二百七十年後の平
安時代に花山法皇がそれを見つけ、西国三十
三所観音巡礼を再興し、中山寺を第二十四番

札所にしたという。また、当寺は先に話したように、安産祈願の霊場として、皇族や貴族それに源頼朝などの武家のほか、庶民に至るまで深い信仰を集めたものの、天正六年（一五七八年）に始まった、荒木村重と織田信長との有岡城の戦いの戦火を受け、多宝塔や五重塔を含む、全山が焼失してしまった。それでも、慶長八年（一六〇三年）には、豊臣秀頼によって、本堂に護摩堂それに阿弥陀堂等の伽藍が再建され、幕末には、明治天皇が出産する時、安産祈願をして無事出産した事から、「明治天皇勅願所」となった。ところが、阪神・淡路大震災で、堂舎や塔頭の総持院などが被災し焼失したものの、ちに復興したが、ここは、中山という山が背後にあり、山腹にある中山奥乃院には厄神明王が祀られ、本堂脇の湧水は大悲水と呼ばれて、祈禱を受けた腹帯の授与を求め、日本各地から多くの参詣者が訪れている。

そんな由緒があるこの寺の本堂で、「野を
もすぎ 里をもゆきて中山の 寺へ参るは後
（のち）の世のため」という、ご詠歌が流れ
る中で挙行された葬事で、長かった彼との思
い出を胸に浮かべながら、寺をあとにした。
この宝塚駅からは、西宮北口を経由して今
津線が走っているが、宝塚駅から二つ目の駅
が「逆瀬川駅」で、駅の北側には、六甲山東
の小笠峠に源を発し、急流を下って宝塚中州
で武庫川に注ぐ、支流の逆瀬川が流れている
が、周囲は閑静な住宅街になっている。
ここは、昭和六十二年（一九八七年）に再
開発された橋上駅で、東口から「アピア」と
いう、四つのショッピングビルにつながり、
通路上にある「風見鶏とからくり時計」が、
何となくお洒落な風情を漂はせている。
一方、阪急神戸線の夙川駅から甲陽園まで
走る甲陽線の、桜のトンネルの中を電車が走
る「苦楽園口駅」があるが、三駅しかない甲
陽線で唯一の途中駅で、左手に六甲山を眺め

ながらゆっくりと走る。

それに単線なので、早朝と深夜以外は、苦
楽園口で上下線の電車が必ずすれ違い、東側
は松並木と桜並木が続く「夙川公園」で、そ
こはシーズンには「さくら道とも呼ばれ、そ
の美しさは天下一品で、そんな桜のトンネル
の中、電車は夙川の鉄橋を渡って甲陽園へと
向かっていくのだ。

この公園は、正式名称では「夙川河川敷緑
地」といい、夙川の河川敷沿いに、南は香栢
園浜の海岸部から、北は銀水橋までの約四キ
にわたって「街路」として整備された公園緑
地であり、公園に続く道路は「夙川オアシス
ロード」と呼ばれている。

大正から昭和にかけ、阪神地域では宅地開
発で、河川敷の処分が進められたが、西宮市
は、開発が進むと古来の風致が損なわれる事
を憂い、昭和三年（一九二八年）に、夙川両
岸の公園化を知事に上申した結果、認められ
周辺の居住者も緑の多い良好な生活環境と

水害防止の恩恵を受けようになった。

この公園の見どころは、臨港線から夙川橋付近までの二、七^キに、約千七百本の桜の木が植えられている事で、夙川駅から苦楽園口駅にかけて多くの露店も並んでいたが、ゴミの不法投棄問題で禁止され、その代わりに「西宮さくら祭り」が開催され、「桜めぐりウオークラリー」のイベントが行われる。

一方、阪急伊丹線は、神戸線の塚口駅から伊丹へ向かうが、その中間駅に「稲野駅」があり、踏切をはさんで上下線の駅舎が別々に建っていて、西口にある「いなな商店街」には、日用品店や文具店、それに洋菓子店に生花店などの、庶民的な店が沢山並んでいる。

その周辺は、戦前に阪急が開発した住宅地があり、静かな街並みの中に、ちよつとしゃれたカフェがあったりするが、駅の西側には、推定建造年代が五世紀後半とされる、兵庫県史跡になっている、全長が約五十二メートル、「御願塚（ごがずか）古墳」がある。

この古墳は、尼崎の塚口辺りまで点在していた、塚口古墳群の北端にあり、多くの古墳が失われる中で、ほぼ造営当時の原型を留めている、帆立貝式のものである。

以前は、周囲に満塚・掛塚・温塚・破塚の四基の陪塚があり、この四基と合わせ、五ヶ塚と呼ばれていたものが転じて、「御願塚」になったとされるが、四基の陪塚は、いずれも宅地造成で破壊されてしまい、跡地には石碑だけが建っている。

そして、伝承によると、昆陽池を造成した「僧・行基」が、当地で開墾の完遂を祈願したとされ、古墳の頂部には、宝永九年（一六八一年）創建の「南神社」が鎮座し、古墳を発掘したときに、石棺を発見した。

長い間、それは孝徳天皇の陵墓だと信じられていたが、それは誤りで、今ではそれは、この地を支配した豪族が被葬者である、という説が有力になっているという。

令和三年三月